

15 人々の暮らしを飛砂から守る庄内海岸防災林造成事業

山形県（酒田市・鶴岡市・遊佐町）



砂で埋没した民家（昭和25年）



着手前の荒廃状況
（昭和26年）



植え付け作業の様子
（昭和36年）



○所在場所

山形県酒田市宮海字新林国有林

○施設・工法の概要

砂丘造成、静砂工（砂草植生含む）、植栽工、下刈、つる切、除伐、本数調整伐、防風垣等

○解説

第二次世界大戦、戦後の混乱などにより庄内海岸林は荒れ果て、飛砂が人々の生活に重大な悪影響を及ぼすようになりました。（長編小説「砂の女」（著者：安部公房）のモデルとして描かれています。）

このため、国直轄による海岸林造成事業に昭和26年（1951年）から本格的に着手しました。最初に砂丘や砂草地の造成を図り、その後順次クロマツを植栽し、保育事業を進めてきました。その結果、国有林において約800haに及ぶ海岸防災林が造成され、飛砂等の被害から庄内平野の人々の生活を守り続けています。